

古文 読解問題 「徒然草」～亀山殿の御池に～」① 問題

亀山殿の御池に、大井川の水を^(a)まかせられんとて、大井の土民に仰せて、^①水車を造らせられけり。多くの銭を^(b)賜ひて、数日に営み出だして、掛けたりけるに、大方廻らざりければ、^②とかく直しけども、つひに廻らで、いたづらに立てりけり。

さて、宇治の里人を召して、こしらへさせられければ、やすらかに結ひて参らせたりけるが、^(c)思ふやうに廻りて、水を汲み入るゝ事めでたかりけり。

^③方に、その道を知れる者は、やんごとなきものなり。

問一・次の「徒然草」に関する問題に答えなさい。

(一) 次の「徒然草」について説明した文の(ア)～(エ)に入る言葉を答えなさい。

「徒然草」は(ア)時代に(イ)によつて書かれた(ウ)文学である。世の中の全てのものは絶えず変化し続けていいる(エ)に基づいた日々の出来事について書かれている。

(二) 「徒然草」は三天隨筆の一つに數えられる。他二作品の作品名と作者を答えなさい。

問二・空所(a)～(c)の動詞を活用を必要とする場合には正しい形に、必要なない場合には原形のまま書きなさい。

問三・傍線部①「水車を造らせられけり」とあるが、なぜ上皇はこのような支持を出したのか答えなさい。

問四・傍線部②「とかく直しけども、つひに廻らで、いたづらに立てりけり」を現代語訳しなさい。

問五・傍線部③「方に、その道を知れる者は、やんごとなきものなり」の説明として最も適切なものを次の選択肢から選びなさい。

ア・人は皆、努力すれば自然と技術を身につけられるから、特別な者など存在しないということ。

イ・技術や知識は時代によつて移ろうものであり、特に重んじる必要はないということ。

ウ・道を知っている者が少なく、誰もが理解できないから、尊いと考えられてきたにすぎないということ。

エ・どんな分野でも、その道に精通し専門の知識や技術を備えた人は、尊く価値ある存在だということ

読解問題「徒然草」～亀山殿の御池に～「① 解答・解説

問一 (一) (ア) 鎌倉 (イ) 兼好法師・吉田兼好 (ウ) 隨筆 (エ) 無常

(二) 枕草子・清少納言／方丈記・鴨長明

問二 (a) サ行下二段活用・未然形

(b) ハ行四段活用・連用形

(c) ハ行四段活用・連体形

問三 亀山殿のお池に、大井川の水を引こうとしたため

問四 あれこれ修理したけれど、最後までまわらないので、役立たずに立っているだけであった

問五 工